

赤灯台物語



赤灯台は1962年の設置以来、港の安全を守るとともに、加茂港の景観に無くてはならないものとして、住民に親しまれてきました。2015年、海上保安庁による灯台の機能集約に伴い、赤灯台の撤去がほぼ決定していましたが、1831人の署名を集めるなど加茂住民の熱心な存続活動により、これからも地元のシンボルとして維持されることになりました。

すでにその機能を終え、灯りはともりませんが、これらかも加茂住民と加茂におとずれる方々のこころを照らし続けるでしょう。



【交通アクセス】

鉄道◆JR羽越本線「鶴岡駅」からタクシー（約20分）
もしくはバス乗り換え。
最寄は「羽前大山駅」からタクシー（約10分）
バス◆「鶴岡駅前」から『加茂経由湯野浜温泉行き』
(約30~40分)

空路◆庄内空港からタクシー（約20分）
バスの場合、『鶴岡駅前行き』から「鶴岡駅前」で乗換え
道路◆日本海東北自動車道「鶴岡西IC」または
山形自動車道「鶴岡IC」から国道7号および
112号を経由（約15~20分）

企画●鶴岡市加茂地区自治振興会
協力●新生「加茂の文化遺産を愛する会」、東北公益文科大学
お問い合わせ●加茂地区コミュニティセンター
TEL 0235-33-3023
加茂地区自治振興会ホームページ
URL:<http://yamagata-kamo.jp/>
※「いにしえの港町 加茂そぞろ歩きマップ」(H24版)
もダウンロードできます。

このそぞろ歩きマップは東北公益文科大学の学生と加茂地区の皆さん
が協働して作製しました。



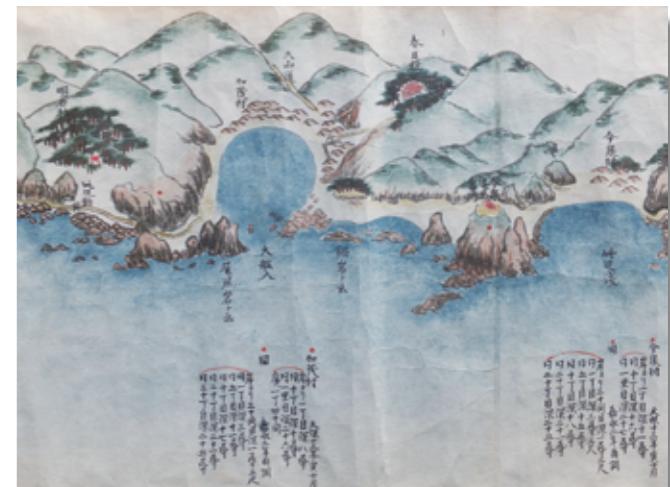
日本海に面した海の見える寺
子供の頃からあなたの慣れしたしんだ寺
きけば僧の一人は中学時代の先輩とか
こんなお経はめったに聴けるものじゃございません
なによりも威風堂々がよろしくて
なつかしいひとびとの忍び笑いにつられて
いちばん笑ったのは
音感の鋭いあなただったかも…
そんな姿が見えるようで

茨木のり子「お経」より抜粋

港町加茂について

鶴岡市加茂は江戸時代、北前船の中継港として酒田に次ぐ海上交通の要衝として栄えました。

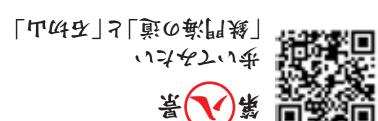
港を囲む小高い山には寺社仏閣が数多く点在し、商港時代の名残を感じさせる蔵や邸宅、民家、狭い路地など、港町としての風情が今でも数多く残っており、2010年には山形県景観条例に基づく「庄内景観回廊」モデル地区に指定されています。



160年前の絵地図



明治のころの加茂港と町並み



加茂のいにしえの港町

景觀マップ

加茂坂 古道物語

坂 港町加茂では明治の頃、物流がさかんになり1891年(明治24年)加茂坂隧道が開通しました。しかし、それまでは加茂山系を越える山道を背負子達が物資を背負って運んでいました。加茂から大山に抜ける山道には、岩倉道(大山馬町)^{うま}や加茂峠(菱津:今^{ひしつ}の加茂坂^{まら})トンネルの上を通る)を通る加茂坂道などの古道があり、加茂峠を通る古道の1つに、約200年前(1812年)湯殿山行者鉄門海^{てつもんかい}が新しく切り開き、明治(1871年)初め鉄門海の遺志^{てつりゆうかい}を受け継いだ鉄竜海が峠を切下げ拡幅工事をした古道があります。その古道には、参り墓などがあり当時をしのぶことができます。

「加茂坂隧道(トンネル)物語」も
あわせてご覧ください。



茨木のり子さん

私は茨木さんと2回、会ったことがあります。本当に気品があり、しなやかな美しさで、薄いサングラスをかけ、おちついだ、おだやかな口調で話していました。

お寺(淨禪寺)には「茨木さんコーナー」があり、お写真や関連書籍・資料などを置いてあります。平成18年2月17日亡くなられてからずいぶん月日が経ちますが、お参りに来る皆さまは、北海道から九州まで地です。ほとんどが突然いらっしゃいます。

お墓の場所は表示していませんので、お寺に聞きに来て下さい。いつでも歓迎いたします。

A black and white portrait of a woman with short dark hair, wearing large-rimmed glasses and a light-colored jacket over a patterned blouse. She is smiling slightly and looking towards the camera.

茨木のり子(1926-2006)
戦後詩における代表的な女性詩人。戦中・戦後の社会を感情的侧面から清新的に描いた叙情詩を多数創作した。主な詩集に『鎮魂歌』、『自分の感受性くらい』、『見えない配達夫』。
加茂・淨禪寺に眠る。